

2014年9月24日

各位

会社名 イオン株式会社
代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
(コード番号8267 東証第一部)
問合せ先 秘書室 責任者 高橋 丈晴
(電話番号 043-212-6042)

当社子会社（マックスバリュ中部株式会社）の業績予想の修正について

最近の業績の動向等を踏まえ、当社連結子会社であるマックスバリュ中部株式会社（名証第2部：コード8171）が、2014年4月8日に公表した2015年2月期第2四半期累計期間の業績予想を添付資料のとおり修正することとなりましたのでお知らせします。

尚、本件による当社の連結業績予想の変更はありません。

以上



2014年9月24日

各位

会社名 マックスバリュ中部株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 芳知
 (コード番号：8171 名証第2部)
 問合せ先 取締役総合企画本部長 望月 俊二
 (TEL：052-857-0719)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2014年4月8日に公表した2015年2月期第2四半期累計期間の業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(金額の単位：百万円)

2015年2月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2014年3月1日～2014年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	82,000	500	500	100	3円16銭
今回修正予想(B)	81,600	△530	△500	△520	△16円42銭
増減額(B-A)	△400	△1,030	△1,000	△620	—
増減率(%)	△0.5	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2014年2月期第2四半期)	76,129	447	497	17	0円54銭

2015年2月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(2014年3月1日～2014年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	81,500	750	750	250	7円90銭
今回修正予想(B)	81,000	△250	△230	△380	△12円00銭
増減額(B-A)	△500	△1,000	△980	△630	—
増減率(%)	△0.6	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2014年2月期第2四半期)	75,852	424	469	△7	△0円24銭

2. 修正の理由

当第2四半期累計期間の個別業績は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動による個人消費の停滞が続く中、当社はお客さまの節約志向に対応するため、火曜日と週末の品揃えの見直し、イオンのブランド「トップバリュ」商品の本体価格の引下げと拡販、イオンの電子マネーWAON（ワオン）を活用した販促企画などを実施しました。これらの取り組みにより、既存店売上高は前年同期比 98.8%（当初計画 97.5%）と、計画を上回って推移したものの、新規出店店舗の売上不振等により、営業収益は業績予想を下回る見込みとなりました。

また、売価変更ロス削減への取り組みを強化したことにより売変率は前年同期比 0.7 ポイント改善できたものの、価格据え置きなどの施策により荒利益率についても 24.4%（当初計画 24.6%）と計画を下回る見込みとなりました。

経費については、経費構造改革プロジェクトを立ち上げ、収益性の向上に取り組みましたが、効果は一部にとどまり、13店舗の新規開店（譲受7店舗含む）に伴う一時経費、売上高確保に向けた販促費がかさみ、販売費及び一般管理費の増加率が営業総利益率の伸びを上回ることとなり、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに当初予想を下回る見込みとなりました。

一方、連結子会社の状況については、当初計画どおりの見通しとなり、個別業績の計画差が連結業績の計画差となりました。

3. 通期の業績予想

通期の業績予想につきましては、2014年4月8日に公表しました業績予想に変更はございません。消費税率引き上げ後に落ち込んだ客単価・買上点数は第2四半期に入って回復傾向にあります。上半期の新規出店店舗の利益改善に加え、イオンのスケールメリットを活かした商品調達、売変率の改善、値入率の改善に引き続き取り組み、第3四半期および売上構成比の大きい第4四半期の計画精度を上げるとともに、更なるコスト削減に取り組んでまいります。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上